

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域福祉に貢献し、支え合う仲間である」事を掲げている。当事業所を地域の中に違和感無く溶け込ませ、地域での生活が広がっていくように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフルームに掲示して、理念を基に、職員はいつも意識して行動している。スタッフ会議において全員で理念の共有を図り、新しい職員には理念を理解してもらい日々のケアに反映している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をグループ玄関の目に入りやすいところに掲示している。又運営会議においても地域住民の方に理解を深めてもらうような内容にしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域との交流はスムーズに行われている。散歩に出かけたときなどは、職員も地域の方々と気軽に挨拶を交わしている。隣にゲートボール場があり、試合のときなどは見学に出かけ、知り合いの方がいると利用者の方もこやかになられ話が弾んでいる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りには地域住民が多数参加。町の文化祭やお祭りに参加したり、近隣の保育園と交流会を行い、クリスマスには小学生を招待している。地域の方と一緒に宮掃除を実施。また、地域のボランティア受け入れている。その他定期的に子供達とお菓子作り実施中。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方の集まりで認知症について講演を行ったり質問に答えたり、事業所の力を地域に活かせるようにしている。特養職員と共に地域の花火大会へのボランティア参加(当GHより職員3名)。また、利用者の見学も支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分たちが気づかないことを知ることで利用者援助の向上につながり、また自分たちの介護に対する意識の向上につながるため、職員間にて話し合い処遇統一をはかり、設備面でも内容を把握し早急に改善している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を定期的に行い、利用者やサービスの実際について報告している。会議では、多くの質問やアドバイスがありケアに生かしている。地域の認知症ケア等も話し合い、施設内にとどまらず地域の中での認知症ケアに役立てて、委員からの意見をサービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉課担当者とは日常的に情報交換を行い情報交換している。福祉職員との関係も深く、双方共に相談やアドバイスを行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員研修や外部研修で学んだ職員は、必ず他の職員に伝え、権利擁護に関する知識を理解し活かせるようにしているが、現在権利擁護利用者はいない。わからないことはいつでも職員間で話し合うようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する内部研修を行うとともに、職員がお互いに注意できるような環境づくりに努めている。職場で委員会を作り、ポスターを掲示やアンケートで意識を高め虐待防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項の説明を行った後、利用者や家族からの希望や質問に対し十分話し合い、納得し安心してもらえるよう援助してる。退所時も何度も話し合いを行い利用者や家族に不安が無いように援助している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当者を設け、随時受け付け及び苦情相談BOXの設置をしています。通常は日常の中で話を聞き、改善している。運営推進会議や家族会議なども活用している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度金銭管理報告と共にふたば通信を発行して報告している。利用者の日常生活・行事報告・職員異動・利用者入居等や季節や時候に応じた内容で、家族の方からも楽しみにしているという言葉が聞かれる。個別に情報提供表を発送。緊急時はその都度個別報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会において意見を聞き、検討改善している。また意見箱を設置している。また、推進会議に参加し家族の言葉として反映している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常の中で気軽に話せる環境を作ると同時に、月に一度スタッフ会議において、意見や提案を聞いて反映している。職員がいつでも意見や提案をしやすいように申し送りノート活用し、スタッフ全員が運営に参加していることを意識している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態や様子の確認を話し合い病院受診や体調不良の対応が適切に出来るようにしている。家族希望での自宅送迎も実施中。職員勤務では公休希望を出来るだけ優先し働きやすい職場にしている。他職員との勤務交代や勤務調整も協力的である。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年度よりスタッフは全員継続。勤務異動は出来るだけ避け、利用者へのなじみの関係性が保てるような努力をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては年齢や性別等条件は無く、適正を考慮して採用される。職員は資格取得に向け元気に勤務してる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員研修で人権や啓発に向けた勉強会を行っている。また、人権に関するポスター掲示し、職員が意識的に人権や人格の尊重を図る機会を作っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人年間計画に沿って内部研修を行っている。また外部研修も可能な限り参加し、外部研修は報告することで他の職員も共有できるようにしている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の介護関係者や医療関係者との小郡三井地区介護保険研究会に参加しています。又同法人内においての勉強会を月1回実施している。その他、地域グループホームとの交流を密に行いサービスの向上に努めている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員旅行や忘年会、カラオケ会や食事会を行なっている。他の施設との交流会も実施。休みの希望は可能な限り勤務表に取り入れている。また、何でも話せる雰囲気づくりに努め、必要時は個別面談を行う。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	必要な場面においてアドバイスし、職員のレベルにあった研修を受けられるようにしている。意欲低下に繋がらないよう職員の努力や実績を評価する。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴と受容を基本とし、話をよく聞き安心して生活できるように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安や希望を良く聞くように話し合いを行っている。利用者の気持ちを代弁し、職員から相談する事もある。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望をケアプランに反映し、必要なサービスを見極め安心される援助を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族の施設見学を実施し、自宅(病院)での事前聞き取りを行い、安心して入居されるように努めている。またスタッフ間で受け入れ前の話し合いを行い、利用者も職員も戸惑わないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、同じものを食べたりして家族同様に生活している。洗濯物たたみや野菜作り等、自分の出来る事を行うことで喜びを感じてもらい、日常の中でも利用者によく話をし共感しながら生活している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにおいて、職員の考え・その他のことを家族と話し信頼関係を築き、本人にとってよい方向を双方で話し合い、ケアプラン説明時には状況を詳しく説明している。また、家族会・行事等により家族と職員がより理解しあう機会を作っている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	落ち着いた生活をしていただけることで、自然と家族との関係性も良好になっています。面会に来られたときは必ず本人の状況を報告し、家族と共に本人を支えているということを認識してもらっている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ある利用者は若いときより入会している会の方が、遠方より面会に来られる。会の活動や会費支払いを家族に連絡し関係性が断ち切れないようにしている。その他近所のなじみのある場所にはドライブで出かけている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ほとんどの方が日中リビングで過ごされており、気のあった方と同じ椅子に腰掛けられたり、一緒に手伝いをするなど孤立しないよう対応している。色々な場面で職員が間に入りいい関係性を保てるように対応している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス変更や退所された家族の方が、花や野菜を持って利用者や職員に会い来られる。会いに来やすい雰囲気づくりを心がけている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や日常の中での話から本人の希望や意向を汲み取る。出来るだけ本人の思いを大切にし、認知症で困難な場合は職員間で話し合い本人本位に考え対応している。基本的に受容を行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントにより、家族から聞き取りを行い、本人からも聞きだせるよう意識的に会話を行い、それをケース記録に残すと同時にスタッフ間で情報交換し共有している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタル測定の実施。また、日常の中から本人が出来ることを発見するよう職員とともに色々なことを行っている。性格・生活歴・ADL・認知症の状態など総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態を観察し、本人や家族の希望・職員・医師の意見を踏まえケアプランの作成を行っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ評価を行い、本人の状態・希望・環境・家族の希望等を踏まえ、ケアプランの作成を行っている。緊急の場合は、その都度早急にカンファレンスを行い変更している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日本人の状態や生活内容を記録。状態変化についてはカンファレンスを行い介護計画変更を行なう。情報共有のため連絡ノートを活用し、こまめな対応が出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る限り個別に対応できるように支援している。入院時は面会に行く時は洗濯物の取替えも行っている。通院送迎はもとより、盆正月に家族希望により車椅子の方を自宅まで送迎すると、とても喜ばれる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員 推進会議委員 民生委員・地域住民 夏祭りボランティア 消防署 消防避難訓練・救急処置講義 文化関係 ドリーム祭り招待・映画祭招待 教育機関 実習生受入・ふれあい体験 等にて協力しながら利用者支援を行なっている。</p>	
43	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人・家族の要望を聞き柔軟に支援してる。家族の希望があれば、他の事業所や他ケアマネジャーと検討しサービス変更の支援もしている。例・・・特養入所・自宅復帰の為在宅サービスへの切り替え等。また町のサービスを受けられるように支援し家族負担の軽減に努めている。</p>	
44	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>介護予防の対象者は現在利用なし。権利擁護利用者も不在。地域包括支援センターとはなじみの関係でもあり必要時には協力体制あり。</p>	
45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族の希望を大切に、在宅からのかかりつけ医師にて医療管理してもらっている。その他の方は事業所の協力病院へ受診支援している。</p>	
46	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力病院の医師と相談し認知症の進行防止・健康相談等を行いよりよい対応が出来るようにしている。</p>	
47	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携看護師が定期的に訪問し利用者の健康状態の把握をしている。職員が異常・小さな変化を感じた時はすぐに相談している。また、併設の特養看護師も医療相談や簡単な処置対応等に協力している。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>特別な場合を除き、連携病院に入院されているため、こまめに面会に行き、病院の医師・看護師・ソーシャルワーカーなどと情報交換している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族会において、家族の関心の高いテーマなので、ターミナルケアについては毎回話し合いを行っている。実際ターミナル期にある方については家族の意見意向を良く理解しどのように支援してゆくのか話し合っている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族からターミナルを望まれるときはその受け入れの為の連絡体制や援助体制を整えている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入院や他施設への移住があるときは、事前に情報提供を行い、面会等にも赴いている。</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>相手の立場に立ち声かけをしている。また入浴や排泄に関しても配慮して、本人より職員のほうが注意している。個人情報の記録は鍵つき書庫に保管している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が納得できる様な声かけを行い、安心して自分を表現できる環境にしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人異なるので、職員が察知して安心して生活できるように援助している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	判断が出来て買物できる方は、職員が付き添い買物している。散髪は外部委託で美容師さんが月一回来訪。その他希望者へは白髪染めの支援を職員がしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の出来る方は、その方の能力にあった手伝いをしている。手伝いを日課とされているかたもおられ、配膳・盛り付け・お膳や茶碗拭きを手伝っていただいている。おやつや行事食などは利用者と共に作っている。食事中は音楽を流すなどして、会話を楽しみながら食事がしやすい雰囲気を作っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつなどは「何がいいですか」と聞きながら好みのものを提供している。本を見ながら利用者と献立について話をします。疾患によりカロリーコントロールの必要な方には、個人的に対応している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を参考にし、定期的な排泄に加えて失禁防止に努めている。また、排泄困難な方には内服以前に牛乳・バナナ・オリーブオイル等で排便コントロール実施。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴の機会を設け、声掛けをしながら入浴援助をしている。入浴拒否をされる方には納得して入浴されるように声掛け援助行なう。入浴されると「気持ち良かった」という声が聞かれる。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を活発にして、夜間より良い睡眠が取れるように配慮している。室温調節や寝具調節なども行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・食事の準備・買い物の手伝い。また、季節の花や野菜の購入から植え付けまでを職員と協力して行うことで満足と喜びを感じてもらっている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方は限られていますが、買い物の際は自分で出していただき、買い物をされている。職員が見守ります。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段から出来るだけ近所へ散歩に出かけたり、買い物やドライブに出かけている。不穏時や希望時は外出を静止せず、本人と共に納得されるまで外出援助している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎週日曜日は近場へドライブをしている。その他行事として季節を感じられるようなところへ出かけている。外出を特別なものと受け止めず、生活の中に取り組みめるように働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、素早く職員が援助を行い家族と話をしてもらっている。不穏時及び面会の間隔があいたときなども、職員が状況説明した後、利用者本人と家族と電話で交流していただいている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶・いす等をすばやく用意して落ち着いて話せるようにしている。定期的に訪問される家族の方々が数多おられる。行事への参加を促すと協力的に参加される。面会時間の制限はない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度のスタッフ会議や法人職員研修において、身体拘束防止について取り組んでいる。言葉の拘束(否定・命令)には特に注意している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けていない。利用者は自由に動けるようにしているため、安全確保に玄関や通用口にはピンポンマットやアラームを使用し見守りしている。見守り職員は場所移動する際はお互い声掛けしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の恐れのある方や注意しなければならない利用者においては、職員が常に見守りを行い、職員が場所を離れるときは、職員同士の声掛けによりお互いの所在確認を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等の危険物には鍵を使用し利用者の危険物取り扱いには十分に注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し事故防止に努めている。また消防署において救急救命やAEDの講習を全員が受けている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署において救急救命やAEDの講習を職員全員が受けている。毎年職員研修において、初期対応や救急蘇生を行い知識や技術を取得している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	特養との合同で年4回定期的に避難訓練を行っている。夜間は1名体制なので法人宿直者や近隣住民に協力が得られるようにしている。誘導灯や避難経路図有り。消防署への自動通報システム有り。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	病気の現状・本人の行動状態等を細かく家族に説明して、リスクについて今の状況を理解していただくようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや日常の様子観察において常に本人の状態把握しているが、体調変化時には至急看護師に報告し、必要であれば担当医師に連絡し指示を仰いだり受診して、早めの対応を心がけている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに閉じていると共に、薬袋の中にも処方箋を入れ職員が把握。また、内服変更時には口頭での報告に加え、連絡ノートに記入し情報の共有を図っている。薬袋の名前と本人の名前を確認し、確実に服薬されるまで側で見守っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を参考にして、定期的な排泄がなされるように援助しています。食事摂取量からも推測している。内服ばかりでなく必要に応じてバナナや牛乳・オリーブオイルを活用している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で出来る方は見守りに対応し、口腔ケアの必要な方には程度にあわせた援助方法にて支援し、ケアプランに取り込んでいる。職員全員が口腔ケアの大切さを認識している。訪問歯科を利用。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量のチェックを行っている。利用者の嚥下力・咀嚼力に合わせた食事形態を提供し、同じものを楽しく美味しく食べてもらい、必要時は代替食品やゼリー等の補助食品を活用している。体重測定において、健康管理把握している。食事メニューにおいては栄養士が確認しています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿って、手洗いうがい・手指消毒の遂行。また職員全体研修やマニュアルにおいて感染症予防に努めている。インフルエンザ予防接種を利用者・職員とも全員接種。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔な器具を使用し、また食材についても良く洗い、また新鮮な状況で使用するように、買い物は毎日または一日おきに出かけています。賞味期限切れの出ないように注意しています。まな板等は定期的に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特養と併設でわかりにくいいため、建物の外壁に「ふたば」と文字を掲げている。玄関先に大きく案内ボードを設置している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日が入るため、遮光カーテンを使用しまぶし過ぎないように配慮している。リビングや食堂には花を飾って季節を感じてもらおうようにしている。大きなカレンダーにて、今日の日を毎日確認されている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングを活用し、利用者がそれぞれお気に入りの場所にて過ごされている。廊下の椅子では、歩行訓練の疲れたとき座ったり、日向ぼっこをされている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用されているたんすや引き出し等、本人のなじみの物や、お気に入りの物をおかれている。写真やカレンダーを壁に貼り落ち着ける雰囲気工夫をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開け換気には注意している。また気候気温に合わせた温度調節を行い、温度計・湿度計を参考にして暑すぎたり寒すぎたりしないように利用者に尋ねながら快適な温度・湿度が保てるように調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室にはバーを設置し安全安楽に行動できるようになされています。歩行困難なかたも多く利用されている為、障害物のないようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には名前を掲げ、トイレには「トイレ」と記入して誰にでも分かりやすくしている。そして、その方々に応じた声掛け・誘導等により自立を促している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺を散歩コースにしている。ベランダには、日光浴用ベンチを置き、プランターに季節の草花を植えて、目で楽しんだり成長を楽しんだりしている。庭の畑に利用者と共に野菜を植え、成長や収穫を楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者との信頼関係を大切にし居心地のよい生活を援助して行くと共に、家族との信頼関係も重要視し、家族と職員で利用者の生活を支えていく事がとても大切だと思っています。利用者の健康管理のため毎日バイタル測定を行い、いつもと違う小さな気付きを大切にしています。苑庭での野菜作りや花の手入れ、また近所のお宮掃除などを職員と一緒にを行っています。職員には認知症の理解や介護レベルの向上のため、毎月施設内研修を実施。また介護に関する委員会を設け、各分野での向上に努めています。退職者が少ないのも、働きやすい職場である証かと思われま。利用者変動もここ2年くらいはありません。特別養護老人ホームとの併設である為協力体制は万全であり、夏祭りやクリスマス会には近所の方々や小学生を招待し利用者との楽しい時間を共有し、理解を深めていただいています。その他「エステボランティア」や「キッズふれあい体験」等ボランティアでは毎月定期的に地域の方や子供達が来ています。利用者も年々高齢になられ認知症進行や身体機能が低下してきていますが、ここで生活していただいているの方々には安心して暮らしてゆける生活の場所になっていると感じています。職員全員で地域福祉の向上を目指し、利用者が生きがいをもって自分らしく生活できるホームであり、地域住民の一人として生活していただけるような支援をしています。